

講義名	海外経済事情			授業形態	
担当教員	河口 和範	開講期・曜日・時間	後期 水曜日 2時限		
		単位数	2	履修開始年次	2年生

主題と概要
 本授業は、現代の海外経済事情について基本的な事情を理解する。そのうえで時事的な問題と関連させながら学び、経済人の立場から現状と課題について理解を深めることを目的とする。そのため、毎日の時事ニュースや海外の経済の動きを習得するため、図書館等で関連書籍や新聞等を読むことで、新たな知見を習得できるようにすることが本授業を履修するにあたり重要な要素となってくる。

到達目標
 本授業は、現代の海外経済の諸課題について基礎知識を習得することを到達目標とする。なお、この科目を学ぶことにより課題に対する判断力、解決に向けた主体的・実証的な学びの取り組み方を習得するための科目である。また、本学のディプロマ・ポリシーの「知識を知識に転換することができる、論理的思考力を持った人材」の中でも、「収集した個々の情報を多角的に分析し、現状を正確に把握することができる(情報分析力)」、授業や事業のなかに隠れている問題点やその要因を把握し、解決すべき課題を特定することができる(課題発見力)」、さまざまな条件・制約を考慮して、解決策を吟味・選択し、課題の解決に向けた進路や段取りを明らかにした上で、具体化することができる(構想力)を習得することが到達目標である。

提出課題
 進捗状況により、レポートを課します。

課題(レポートや小テスト等)に対するフィードバックの方法
 レポート課題のフィードバックはその登壇の授業開始後にいたします。

評価の基準
 中間試験(理解度の確認試験) - 30点
 期末試験 - 60点
 授業への参加態度 - 10点
 中間試験と期末試験の合計点を中心に評価します。

履修にあたっての注意・助言他
 「アジア経済論」、「日本経済」、「国際経済学」等の科目も併せて履修することにより、より理解度が深まります。

教科書
 .使用しない。

参考図書
 .なし。

その他
 第1回目は資料を配布します。
 2回目以降はキャンパスクロスに提示します。
 印刷して持参するかPC、タブレット等で閲覧してください。

授業計画

第1回：イントロダクション、「海外経済事情」について
 ガイダンス、本講義の目的や到達目標、授業の進め方、講義概要を解説する。また成績評価の方法などについて説明する。また、海外経済事情の概要を説明する。
 予習：キャンパスクロスに事前に提示する資料をよく読んでおき、わからないことがあった場合は、事前に調べて講義に出席すること(90分)
 復習：講義で取り上げた内容の復習(120分)

第2回：経済と市場のメカニズム
 経済と市場の基本的なメカニズムを理解するとともに、政府の役割やその取り組みについて説明する。
 予習：キャンパスクロスに事前に提示する資料をよく読んでおき、わからないことがあった場合は、事前に調べて講義に出席すること(90分)
 復習：講義で取り上げた内容の復習(120分)

第3回：日本経済とアジア経済
 戦後復興期から高度成長期、バブル経済までの日本とアジアの経済について、統計データを中心にその特徴を説明する。
 予習：キャンパスクロスに事前に提示する資料をよく読んでおき、わからないことがあった場合は、事前に調べて講義に出席すること(90分)
 復習：講義で取り上げた内容の復習(120分)

第4回：日本経済とアジア経済
 バブル経済崩壊から現在の日本経済とアジア経済について、統計データを中心にその特徴を説明する。
 予習：キャンパスクロスに事前に提示する資料をよく読んでおき、わからないことがあった場合は、事前に調べて講義に出席すること(90分)
 復習：講義で取り上げた内容の復習(120分)

第5回：日本の経済発展とアジア
 PBL経済圏論以降、日本とアジア諸国間で様々な経済環境の変化をもたらした、その要因と課題について考える。
 予習：キャンパスクロスに事前に提示する資料をよく読んでおき、わからないことがあった場合は、事前に調べて講義に出席すること(90分)
 復習：講義で取り上げた内容の復習(120分)

第6回：アジアの工業化戦略
 アジアNIE SからASEAN、中国へと波及した工業化について、その特徴と課題を取り上げる。
 予習：キャンパスクロスに事前に提示する資料をよく読んでおき、わからないことがあった場合は、事前に調べて講義に出席すること(90分)
 復習：講義で取り上げた内容の復習(120分)

第7回：グローバル化によるアジア経済
 グローバル化によるヒト・モノ・カネ・企業の動きについて、統計データを中心にその特徴を説明する。
 予習：キャンパスクロスに事前に提示する資料をよく読んでおき、わからないことがあった場合は、事前に調べて講義に出席すること(90分)
 復習：講義で取り上げた内容の復習(120分)

第8回：中間試験
 第1回～第7回までの内容に即した内容で筆記試験を行う。
 予習：配布した資料をもとに「課題」を解けるようにして試験に臨むこと

第9回：地域統合経済
 グローバル化により自由貿易協定・関税同盟・共同市場・経済同盟など、さまざまな地域経済統合が進められている。これらの基本的な目的を概観し、その歴史的な背景を踏まえつつ現状を把握する。
 予習：キャンパスクロスに事前に提示する資料をよく読んでおき、わからないことがあった場合は、事前に調べて講義に出席すること(90分)
 復習：講義で取り上げた内容の復習(120分)

第10回：地域統合経済
 東アジア、とりわけASEANを中心に進められている地域統合経済について、その特徴と課題を取り上げる。
 予習：キャンパスクロスに事前に提示する資料をよく読んでおき、わからないことがあった場合は、事前に調べて講義に出席すること(90分)
 復習：講義で取り上げた内容の復習(120分)

第11回：地域統合経済
 ASEANを中心に進められている地域統合経済について経済的役割を説明し、それが社会にどのような影響を与えているかを考える。
 予習：キャンパスクロスに事前に提示する資料をよく読んでおき、わからないことがあった場合は、事前に調べて講義に出席すること(90分)
 復習：講義で取り上げた内容の復習(120分)

第12回：世界の労働・人口問題
 雇用や労働、少子高齢化問題について日本やアジア諸国を中心に現状を把握し、その要因と課題について考える。
 予習：キャンパスクロスに事前に提示する資料をよく読んでおき、わからないことがあった場合は、事前に調べて講義に出席すること(90分)

授業形態(アクティブ・ラーニング)

ア：PBL(課題解決型学習)	イ：反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他(A・L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合)	

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

到達目標に挙げた通り、「知識を知識に転換することができる、論理的思考力を持った人材を育成する観点」から、収集した個々の情報を多角的に分析し、現状を正確に把握することができる(情報分析力)、授業や事業のなかに隠れている問題点やその要因を発見し、解決すべき課題を特定することができる(課題発見力)、さまざまな条件・制約を考慮して、解決策を吟味・選択し、課題の解決に向けた進路や段取りを明らかにした上で、具体化することができる(構想力)を身に付けることができるようになる。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述
 教員による一方的な講義ではなく、講義中に学生に質問しますので当てられた学生はその質問に答えられるようにしっかり予習を行って講義に参加してください。

実務経験の有無及び活用

備考